

農業の新しい技術

No.607 (平成21年9月)

分類コード 02 - 05

熊本県農林水産部

ペンステモン咲きキンギョソウの電照栽培による年内出荷技術

農業研究センター 農産園芸研究所花き研究室

担当者：佐渡旭

研究のねらい

キンギョソウの花がアサガオのように開くペンステモン咲き種が、ストックやスイートピーに替わる品目として注目されている。キンギョソウは、初冬から翌年晩春まで長期間出荷する作型であるが、近年の生産資材の高騰を背景として、年末に集中的に出荷する作型が求められる。そこで年末に品質の高い切り花を出荷することを目的に、晩生系ペンステモン咲き種の電照処理による年内出荷技術を確立する。

研究の成果

1. 9月上旬定植作型における採花盛期は、定植直後から電照を開始すると12月上旬、定植30日後から電照を開始すると12月下旬となり、年内に採花できる(図1)。
2. 切り花品質は、電照開始時期が遅いほど優れる(表1)。
3. 年内の採花本数は定植直後の電照開始で最も多く、階級別では、75cm(Lサイズ)以上の切り花が定植30日後の電照開始で最も多くなる(図2)。

以上の結果から、晩生系ペンステモン咲きキンギョソウを9月上旬に定植し10月上旬から電照を開始すると、年内に品質の高い切り花を出荷できる。

普及上の留意点

1. 早生品種の利用は切り花長が短くなるため、中～晩生品種を用いる。
2. 最低夜温10℃で加温する。
3. 電照の消灯時期は11月中旬を目安にする。

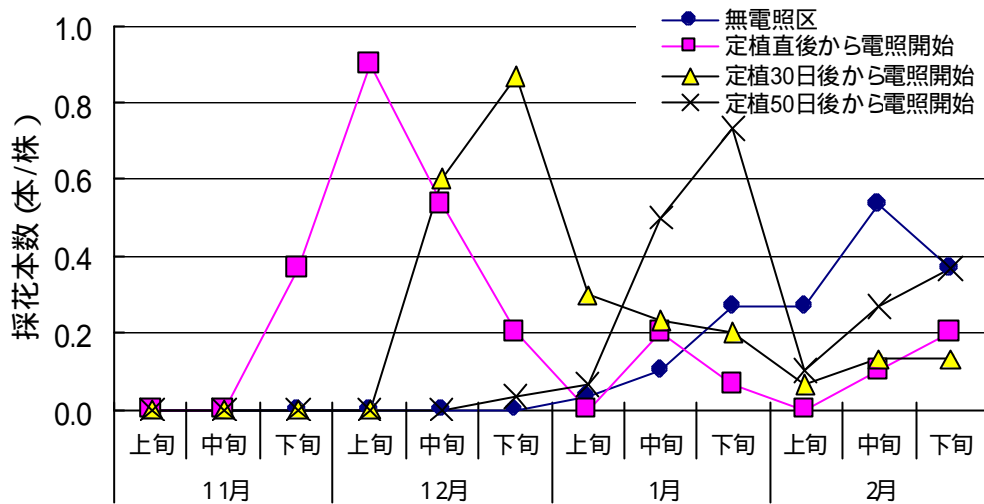


図1 電照開始時期が採花本数推移に及ぼす影響

表1 電照開始時期が採花本数及び切り花品質に及ぼす影響 (採花開始日から1ヶ月間)

試験区	採花本数 (本/株)	切花長 (cm)	調整重 ^z (g)	茎径 ^y (mm)	花穂長 (cm)	小花数
無電照区	0.7	120	35.4	5.2	14.1	16.1
定植直後開始	2.1	73	26.9	3.9	13.4	11.9
電照区 定植30日後開始	1.8	87	28.9	4.4	13.8	13.1
定植50日後開始	1.1	118	29.8	4.6	14.0	14.1

z: 80 cm調整後、下葉20 cmを欠いた後の切花重 y: 80 cm調整時の切り口径

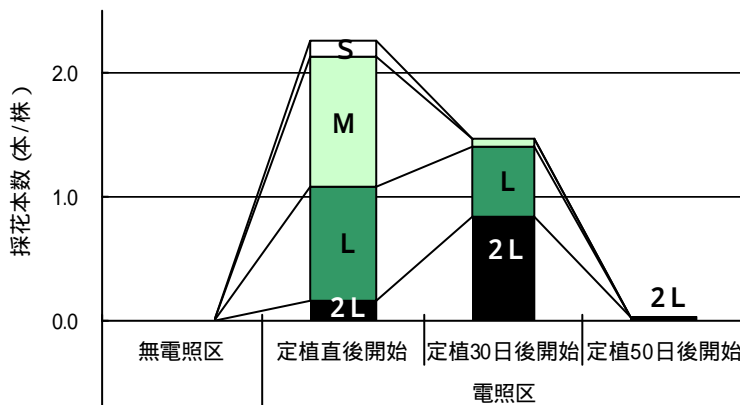


図2 電照開始時期が11～12月の切り花長別採花本数に及ぼす影響
2L 85cm以上 L 75～85cm M 60～75cm S 50～60cm
(熊本県花き農協出荷規格による)



写真1

ペンステモン咲きキンギョソウ

(耕種概要)

- ・供試品種 ホワイトパタフライ (晩生系ペンステモン咲き種)
- ・播種日 8月16日 定植日 9月6日 摘心日 10月6日 摘心節位 2節
- ・温度管理 11月1日より10 設定加温
- ・試験区 (電照期間)
- 定植直後開始区 (9月6日～3月31日)
- 定植30日後開始区 (10月6日～3月31日)
- 定植50日後開始区 (10月26日～3月31日)
- ・電照方法 75W白熱電球による深夜電照 (22:00～2:00)